

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200152		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム浜松根洗		
所在地	静岡県浜松市中央区根洗町738-2		
自己評価作成日	令和7年7月20日	評価結果市町村受理日	令和7年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=2297200152-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和8年8月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の個々の認知面に合わせた活動や作業へとお誘いし、可能な限りご本人の残存機能を維持し「自立」した生活の実現に向けて、日々実践しています。四季に合わせた行事を計画し季節を感じていただきつつ楽しみの創出や笑顔を引き出すことができるよう努めています。ご見学に来られる方々からも「明るい雰囲気」と好印象のお言葉も聞かれています。また、認知症ケアの経験豊富な職員が半数を占めていますので柔軟な対応で、ご利用者様にストレスのかからないケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から15年、地域との関わりは年々深くなり、高校生の労作ボランティアや農園でのいちご狩りなど定着した取組が少なくありません。一方でコロナ禍を経て、「もっと楽しみを～」という想いがつり、ボランティア奏者のエレクトーンに乗せてAIロボットの犬が踊るといった新しいメニューも加わり、利用者の笑顔や発語も機動力となって事業所としては更に増やしていきたいと考えています。例えば夏祭りについても、牛乳パックに切れ目をいれて花紙を貼ることで模擬提灯とするといった手技を要することをコツコツおこなう職員集団なことから家族からも親しまれ、日頃の関わりへの感謝の言葉がアンケートにも沢山挙がっています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の浸透がなされていない職員もいる為、理念の唱和を朝礼時に行い、毎日の行動指針になるよう意識付けをしている。	理念は新任職員のオリエンテーションに組み込まれ、理念ブックが手渡されています。朝礼での唱和がおこなわれていますが、管理者としては「理解している」「していない」職員が混在していると捉えています	ボリュームがある理念ですので、想いを共有していくためにも、代替となる事業所目標があると、なお良いと考えます
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナなどの感染症により、日常的な交流は設けられていないが、今年から少しずつ外部との交流に注力していきたいと思えます。事業所の通信やブログなど定期的に配信し、情報提供を行っている。	浜松市委託のロコトレ(体操)との関わりから譲ってもらった本やおでん鍋が事業所内で活躍していて、地域のかかわりの象徴ともなっています。また、本年度は数年ぶりに根洗町のお祭りにも出掛けることができ、今後の展開に弾みがついています	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けて広報を発行し、回覧板などを通じて地域の方々に暮らしの様子を発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の活動のご報告を行い、評価をいただきつつご家族様の具体的なご要望もいただいた。また、地域の行事や実情の情報共有をさせていただき、納涼祭等の参加へと繋げている。	写真付きの十分な資料を開催前に報告として管理者が用意しています。ゆうゆう会(老人会)をはじめ近隣からのメンバーも得て、地域の祭りでも駐車場を確保くださるなど日常において恩恵を受けています	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営推進会議を通じて、活動やサービスについてお伝えしている。	以前取り組んでいたロコトレは、地域包括支援センターからの紹介で始めたものです。そのほか、空室の問い合わせや講習会の案内など、日頃からの関係が運営推進会議を通じて築かれています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待や身体拘束について、3か月に一度研修を行い理解を深めている。玄関に施錠をすることでご利用者様に与える心理を理解し、開錠している。	虐待防止・身体拘束廃止委員会を四半期毎に開催するとともに独自のチェックシートに取り組んでいます。項目を設定していることから、細かな点についても振り返りができています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修や、虐待や不適切なケアが行われていないかチェックシートを用い、自らの行動の振り返りや不適切なケアではないかとの疑問や意見を抽出し認識の統一を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修の中で学習している。実際に活用されているご利用者様もいらっしゃる。ご利用者の中で必要と思われる方には制度をご紹介していきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、時間をかけて説明を行い、随所で疑問点を尋ね、納得していただいたうえで締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度ご家族様アンケートを実施し、そのご意見や感想から、サービスの質の向上に繋げている。前回アンケートより面会や外出の緩和の希望がきかれ、感染状況を鑑みながら緩和を図りました。	「利用者の意向はできるだけ実現させたい」として、例えばテレビ視聴から刺激を受け「お好み焼き食べたい」となれば、速やかに実施しています。このような日頃の取組を評価しているか、家族アンケートには称える言葉が連なっています	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議にて意見や提案をする機会を設け、環境整備や働きやすい職場環境作りを目指している。	スイーツバイキング、ギター演奏会などのイベントでは職員も達成感を味わえていることが、丁寧な取組を以って写真からも伝わります。職員はこのように仕事を通じて小さな自己実現ができていくようですが、意見の創出は薄い状況にあります	個別面談が時間や配置として難しい場合、作業をする中で話を聞く機会を設けていくことを期待します
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々のライフスタイルや希望するワークバランスに沿えるように努めている。個々の得意な分野を生かした活動の提供など向上心をもって働く事ができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修においては、時間の確保が可能であればできる限り受ける機会を設け、中途採用者には、教育研修課による研修を受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者と交流する機会はほとんど実施されていない。社内での他事業所との勉強会に参加しサービスの質の向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では収集した情報をもとに、本人の言葉に耳を傾け、安全面にも配慮しながら安心して生活していただけるよう関わりを多く持つようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学の段階から、ご本人・ご家族がどのような事にお困りなのか傾聴し、話しやすい相手となるよう雰囲気にも気を配っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階では環境の変化への適応を優先し、安全面や他利用者様との関りへのサポートなどその方のリズムを把握しながら居心地のよい生活の場所となるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が有する力を生かし、役割を担いながら共同して生活できるよう常に模索し支援にあたっている。□ □		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がこんな生活をしていただけたら話しかから可能な限りご利用者の今までの生活を実現・継続できるよう家族と話し合いながら支援の方向を決定するようにしている。□ □		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により外部との関係が途切れつつあるが、今までの馴染みの理髪店へパンチパーマをかけに行くことができるよう家族とも調整を図りながら実践した。□ □	家族との外出も解禁となり、なじみの理髪店への外出が叶い、コロナ禍前にやっと戻りつつある今日この頃です。彼岸のおはぎ作りで記憶が想起したり、ひなまつりにはひし形の型に材料をはめこんだり、慣れ親しんだハレの日を継続しています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や認知面などを考慮し、座席もご利用者同士が良い関係性を築けるよう配慮している。テーブルごとに会話が弾み、賑やかな時間を提供する事ができている。□ □		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去された際には、葬儀へと参列させていただき施設での様子やご利用者と共に過ごした日々を振り返りながら家族の気持ちに寄り添うように努めている。また、契約終了後も面会の機会があれば、様子を確認させていただいている。 <input type="checkbox"/>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自身の意向を確認できる方には、直接希望を窺うなど暮らし方や希望の把握に努めている。また、意思確認が困難な方には、日頃の言動や仕草から思いを汲み取るよう努めている。 <input type="checkbox"/>	個々の介護計画書への位置づけは無論のこと、業務フローにも「〇〇様へ米研ぎの声かけ」「〇〇様、廊下歩行サポート」と記載があり、常から利用者の意向や、やりがいに尽力していることが確認できます	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やサービス事業所より情報の提供や、会話の中から生活の様子やこれまでの暮らしがの継続に向けて把握に努めている。 <input type="checkbox"/>		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知面や身体面を考慮し、その方に応じた活動や生活を営んでいただけるよう努めている。ご本人の得な事にも着目し支援を行っている。 <input type="checkbox"/>		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状を把握しながらサービス担当者会議にて意見やアイデアを収集し、穏やかにお過ごしいただける支援方法を検討し、介護計画に取り入れている。 <input type="checkbox"/>	「充実した時間を過ごせる」との長期目標には、家族を担当者としています。電話などで利用者本人の精神的なサポートを位置付け、専門職だけでなくチームケアが敷かれており、地域密着型ならではの介護計画書と成っています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや、申し送りノートの活用を通じて情報共有をし、介護計画の見直しを行っている。介護計画更新時には、入居者担当者が気づきシートを記入し、更に身近な目線からの情報の共有を行っている。 <input type="checkbox"/>		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お一人のみでの支援方法に捉われず、他利用者様にも好影響が波及できるような支援があれば、その方のみでの支援にとどまらないようサービスの多様化や可能性を秘めた支援を行っている。 <input type="checkbox"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の社会資源の把握までには至っていないが、少しずつ地域のボランティアの受け入れも開始し、演奏会や新しい時代の機器に触れるなど、豊かな暮らしに近づけるよう支援している。 <input type="checkbox"/>		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を踏まえ、往診時には日頃の健康状態を細かく報告し、異常時には早期に主治医へと相談するなど状態の悪化の予防に努めている。 <input type="checkbox"/>	月2回、内科の訪問診療がおこなわれ、立ち合いは管理者とリーダーで、「往診後報告書」に記録が残されています。「口腔衛生管理体制加算」を取得し、歯科も月2回実施されています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護師による健康管理を行い、日常的な処置や助言を受け、必要に応じて医師へと報告し指示を仰いでいる。 <input type="checkbox"/>		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、安心して治療がなされるよう情報提供し、早期に退院がなされるよう病院関係者やご家族との連絡をとり状態の把握や早期受け入れに対応している。 <input type="checkbox"/>		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の契約時にも、重度化や終末期について詳しくご説明をさせていただき、比較的早期の段階からご家族に意向を確認しながら方針を打ち出している。 <input type="checkbox"/>	「重度化した場合の対応にかかる指針」に基づき、家族とは合意形成ができています。4時間滞在を週2回で主に健康管理をおこなう看護師が配置されていることは心強く、協力医も24時間オンコールで、夜間でも駆けつけてくださるので安心です	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実際に発生した急変時の対応などの振り返りを行い、対応の共有を図っている。消防隊の指導を仰ぎながら定期的にAEDの使用方法を学んでいる。 <input type="checkbox"/>		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や防災研修の中で避難方法の周知・確認を行っている。地域との関係や協力体制は、未だ不十分である。 <input type="checkbox"/>	消防署の立ち合いを求め、AEDや応急処置も避難訓練に併せて実施するほか、全職員が参加となるようシフトを工夫しており、特に新任職員には通報担当を担ってもらうよう配しています。また蓄電池の使い方周知はBCPの訓練のなかでおこなっています	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみの中にも人格を尊重した言葉かけを意識し、相手の事を認め尊重するよう心掛けています。□ □	申し送りは利用者に気遣ってフロアではせず、事務所でこなっています。また、洋服やレクリエーションのメニュー選びの場面において自己選択の機会があれば逃さず、「選ぶこと」が生活の中にあるよう配慮しています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の表情や日頃の様子から、思いをくみ取るように努め、ご本人で自己決定ができる事柄には、ご本人に直接伺い確認をしている。□ □		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活習慣を可能な限り継続するように努め、その時々のお気持ちに合わせて過ごしていただくようサポートしている。特に希望が窺えないご様子時にはその方に合わせた活動を提供している。□ □		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で衣類など選択できる方には、その日の気持ちに合わせて選んでいただいている。身だしなみも難しい方には必要に応じてお手伝いしている。□ □		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の食事に準備には一緒に行っていたが、共同生活の一人として役割を担っていた。また、様々な食レクを通して季節感や皆で楽しむ時間を提供している。□ □	BGMのクラシックが流れる中、利用者の達筆による「本日のメニュー」が掲示され、職員も同じテーブルを囲んで会話を楽しむ和やかな風景が広がっています。下膳は利用者が役割としてスムーズにキッチンに運ぶ姿がありました	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分・栄養状態を日常的に管理し、健康状態のバロメーターにも繋げている。水分においては、一日1500ccを摂取していただけるよう努めている。食事時には観察を行い状態に変化はないか確認している。□ □		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは実施されていないが、夕食後には本人の状態に応じて口腔ケアを行なっている。訪問歯科とも連携し、口腔内の状態の把握に努めている。□ □		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方々の排泄パターンを把握し、失敗を減らし可能な限りトイレでの自立した排泄がなされるよう支援している。 <input type="checkbox"/>	立位が不安定といった身体的なことから介助が必要な人は3割ほどいます。パットの当て方や頻度に介入して家族の経済的な負担を考慮した取組を続ける一方、それでも2人介助が必要なレベルはなく、リハビリパンツから布パンツへの向上した例もあります	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	独自の自立支援ケアの中で一日1500ccの水分摂取に努め、便秘を抑制し追加下剤の服用も減少している。また散歩やリハビリ体操へとお誘いし運動も取り入れ、便秘予防に努めている。 <input type="checkbox"/>		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望やタイミングに合わせた入浴の提供はなされていないが、入浴剤を入れ香りを楽しんでいただいたり、季節のものを湯舟に浮かべるなど楽しみに繋げるよう工夫している。 <input type="checkbox"/>	1日3名をめやすにゆったりとした時間を過ごしてもらっています。現在同性介助の希望はないものの、「入るのがいや」「この人はいや」には、人や日、時間を変更して対応しています。桜やゆずなどを浮かべて楽しむ事もあります	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣を大切にしながら、室温や寝具明かりの調整を行い、快適に休んでいただけるよう配慮している。また、日中は活動へとお誘いし夜間安眠へ繋げるよう努めている。 <input type="checkbox"/>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その方の服薬内容や効果について理解を深め、内服薬変更時には情報を共有し、症状の変化や異変がないか注意深く観察を行っている。 <input type="checkbox"/>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの趣味や生活歴を鑑み、楽しみごとを模索し充実した時間をお過ごしいただけるよう努めている。役割を担うことで意欲的に生活していただけるよう支援している。 <input type="checkbox"/>		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の希望に沿って外出支援は困難であるが、習慣であったパーマをかけることなど希望に合わせて家族と協力し実現している。	日々の散歩は「近くの鳥居まで」といったコースもおおむね確立していて、毎日出かける人もいます。桜散策やいちご狩り、万葉の森(公園)への外出のほか、運動会や流しそうめん等のアクティブな行事があり、気分転換的な活動が月1回ほど企画されています	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症状に伴う混乱からトラブルを回避するため、お金の所持は行っていない。散歩時に「ジュースを買いたい。」との希望には添えるよう職員が準備いつでも購入できる体制を整えるなど工夫している。 <input type="checkbox"/>		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族のご理解のもと、ご了承をいただいている方には、希望が聞かれた際にはお電話をつなぎ、安心に繋がられるよう支援している。 <input type="checkbox"/>		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは季節を感じていただけるようご利用者の作品を中心に掲示している。清潔感を感じ心地よく過ごしていただけるよう清掃にも力を入れている。 <input type="checkbox"/>	2階のユニットは特に創作が好きな利用者が多く、季節の作品が並んでいます。時には「一緒に写真を撮りたい」と声も挙がる程、利用者同士が仲良しとのことで、洗濯をたたみながら談笑する様子が共用空間の家庭的な雰囲気を醸し出しています	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者に合わせて、心地よくコミュニケーションが図れるよう座席や居場所を工夫している。お一人で静かに過ごせる居場所も自然と確保できるよう努めている。 <input type="checkbox"/>		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にもご協力をいただき、使い慣れたものや馴染み深いものを居室へとお持ち込みいただくようお願いしている。また、認知面での混乱を招いてしまう物はないか環境にも配慮している。 <input type="checkbox"/>	あでやかな紫のカーテンがある部屋には同じ色の帽子があって、利用者本人の好みが尊重された生活があることが視えます。伴侶の遺影やひ孫の写真が並び、好きな洋服を沢山ハンガーラックに吊り下げて、居心地のよい空間をつくっていることを視認しました	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掲示物などご利用者の目線で分かりやすいように表示をしたり、建物内部の移動など安全で自立した移動がなされるよう危険なものはないか環境物にも注視している。 <input type="checkbox"/>		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200152		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム浜松根洗		
所在地	静岡県浜松市中央区根洗町738-2		
自己評価作成日	令和7年7月20日	評価結果市町村受理日	令和7年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jiyosyoCd=2297200152-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和8年8月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の個々の認知面に合わせた活動や作業へとお誘いし、可能な限りご本人の残存機能を維持し「自立」した生活の実現に向けて、日々実践しています。四季に合わせた行事を計画し季節を感じていただきつつ楽しみの創出や笑顔を引き出すことができるよう努めています。ご見学に来られる方々からも「明るい雰囲気」と好印象のお言葉も聞かれています。また、認知症ケアの経験豊富な職員が半数を占めていますので柔軟な対応で、ご利用者様にストレスのかからないケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から15年、地域との関わりは年々深くなり、高校生の労作ボランティアや農園でのいちご狩りなど定着した取組が少なくありません。一方でコロナ禍を経て、「もっと楽しみを～」という想いがつり、ボランティア奏者のエレクトーンに乗せてAIロボットの犬が踊るといった新しいメニューも加わり、利用者の笑顔や発語も機動力となって事業所としては更に増やしていきたいと考えています。例えば夏祭りについても、牛乳パックに切れ目をいれて花紙を貼ることで模擬提灯とするといった手技を要することをコツコツおこなう職員集団なことから家族からも親しまれ、日頃の関わりへの感謝の言葉がアンケートにも沢山挙がっています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員に浸透・実践には至っていない。朝礼での理念の唱和を始め、浸透・実践につなげられるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はほとんどないが、散歩時に出会った方との挨拶や地域の方が花壇の整備に来てくださる等の交流はある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ブログで活動の様子を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の生活の様子や活動の報告を行っている。ご家族様からの質問・疑問についても報告を行い、理解を深めて頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営推進会議を通じて、活動やサービスについてお伝えしている。また、認定調査の際にも取り組みを伝えるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関やエレベーターホールへの施錠は行っていない。利用者の状態によっては施錠が必要と考える職員も存在するが、認知症の理解と拘束されることでの利用者の不利益を理解することで、施錠以外の他の方法での対応を実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切な対応が虐待につながることを研修を通して理解している。また、職員がお互いに注意し合える関係性を築けるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して権利擁護の理解を深めるよう努めている。また、ご利用者の中で成年後見制度を利用されている方もいらっしゃる。家族関係の中で、必要と考える方や制度利用で負担が軽減できると思われる方にはご紹介できるよう知識を深めていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	具体的な不安やお困りごと、サービス利用に至るまでの過程や心理的な変化を尋ねている。また、可能な事・困難な事を説明し、納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプラン説明時、ご家族様から意見・要望をうかがうよう努めている。ご利用者からは日常の会話の中から、望まれていることを洞察し、可能な限り実現できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議にて意見や提案をする機会を設け、環境整備や働きやすい職場環境作りを目指している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々のライフスタイルや希望するワークバランスに沿えるように努めている。個々の得意な分野を生かした活動の提供など向上心をもって働く事ができるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修においては、時間の確保が可能であればできる限り受ける機会を設け、中途採用者には、教育研修課による研修を受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者と交流する機会はほとんど実施されていない。社内での他事業所との勉強会に参加しサービスの質の向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様からの情報やご本人の基本情報、パーソンセンタードケアを用い、積極的にかかわることで顔見知りから馴染みの関係へと変化していけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご見学やお電話での問い合わせの段階から、お困りごとの把握や具体的な例をあげての認知症の症状の軽減をお伝えし、不安の払しょくや要望の実現に向けた取り組みを伝えている。ご入居後2週間で様子をお伝えし、予測される変化もお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	不安の軽減や環境に慣れて頂くことを第一に、その方の豊か暮らしができるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の強みを生かした役割を模索し、当たり前の生活が営めるよう、共に暮らしている意識を持って支援にあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の生活歴から、ご本人の望まれる暮らしや自宅の頃の生活の継続に向けて、ご家族様と話し合いながら支援に努めている。また、ご本人を支えるチームの一員として、ご家族様には今現在の状態を受け入れて頂けるよう説明をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍が明け、徐々に家族面会、ご友人との面会、外出が実現できるようになった。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知面や性格などを考慮し座席を決定している。また、助け合いや刺激となることで、職員が介入せず解決できたことや、活性化がうかがえる方もいらしゃる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去された際には葬儀に参列させて頂き、在りし日の思い出をご家族様と語り、ご家族様のお気持ちに寄り添うよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの何気ない会話から、望まれている事・ご意向の把握に努め、困っていることや意にそぐわないことが無いかがっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご入居前のサービス情報、ご本人やご家族様との会話の中から、生活歴や趣味・嗜好・馴染みのことを引き出せるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの生活パターンを把握し、出来ているタイムスケジュールに合わせて頂くのではなく、その方がその時にやりたい事やその方の能力や好みに合わせた時間の使い方が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	認知面や身体面の変化に伴い、有する能力やご要望が変化していく現状を捉え、望まれる暮らしが継続できるよう都度見直しや方法の変更等を話し合い、実現可能な介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子記録や連絡帳・申し送りで速やかに情報の共有を図っている。事故やヒヤリは迅速に対応の変化が必要な事例として見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	気づきやヒヤリ、小さな変化を把握し、ニーズの変化と捉え、柔軟なサービスの変化に対応できるよう、意見を交わしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩には近隣の公園を利用している。ギターやエレクトーン演奏のボランティアの受け入れも始まっている。ロボット犬の訪問では多くの笑顔が見られた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	その方の状態に合わせた主治医を選択している。眼科や整形外科などは家族対応をお願いしている。毎月の通信で往診時の指示や健康状態の報告を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護を受けている。訪問前に変化のあった利用者の情報の共有を図り、受診の必要性の判断、医療行為の提供を行って頂いている。また、主治医への情報提供も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリーを活用し、安心して医療を受けられるよう情報の共有を図り、退院前に情報を頂き、退院後速やかにケアの変化に対応できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時から、重度化した場合や週末期について説明を行い、ご意向の確認を行っている。また、ケアプラン説明時にもご意向の確認を行い、意向の変にも対応できるよう方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応については研修を行っている。また、救急に対応した職員からは改善点を上げてもらい、よりスムーズな対応ができるよう改善している。また、消防の協力で初期対応の訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や防災研修を行っている。施設内での非難は迅速に行われると思われるが、屋外に避難した場合、地域との協力体制が構築できていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を持った声掛けに努めている。また、目線の高さを合わせ上から見下げないように注意している。状況によってはフランクな会話をして、関係性が深まるよう使い分けをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から、ご本人の想いや望みを引き出し、また洞察し、選択肢のある問いかけで自己決定ができるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはほぼ決まっているが、参加されるか断わるかはご本人に決定して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前の準備で一緒に行える方には、服の好みをうかがい、その日の気分で決めて頂いている。また、身だしなみ(寝ぐせ)を気にされる方には、朝の整容のサポートをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力やこだわりに合わせて、食事準備をお手伝い頂いている。また、認知機能の把握や混乱を把握できる機会と捉え、さり気ない見守りの中で観察を行っている。片付けも、その方の身体機能に合わせた下膳方法で行って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った食べる量や食事形態で提供している。主食を減らす場合は、ご家族様のご了承を頂いている。水分量はその方の摂取量に応じて、カップの大きさを変えたり、好みの飲み物を提供することで増量に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に全員に口腔ケアをして頂いてはいないが、入床前には全員がされるよう声掛けを行っている。特に、口腔内に炎症がある場合や残渣・つまりを気にされる方には毎食後のケアを声掛けしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗については、なぜ失敗するのかをアセスメントし、動作・切迫性・パンツのサイズ・服の形状等自立の妨げになっている原因を探り、最低限のサポートで排泄が完結できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日当たり1500cc以上の水分摂取を目標に、タイミングや味替えをして、水分量の増量に取り組んでいる。また、水分や運動の必要性もお伝えしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日当たり3人の方をお誘いしている。意にそぐわない方は見合わせることや、お好みの時間帯を把握して声掛けをしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のタイミングで入室され、お好きな時間に消灯されるよう配慮している。眠れない方は、共用部で数時間お過ごし頂くこともある。日中においても、活動よりも休息を望まれる方には休息をして頂き、疲労がうかがえる方には休息の声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用や生活上の注意点を理解している。服薬支援はダブルチェックを行い服薬ミスを防いでいる。処方の変更となった場合は、往診報告書や連絡帳で、変更後の状態の観察が意識されるようアナウンスしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方のお得意な家事や作業・趣味・楽しみ事を把握し、利用者ごとに一日が充実したものとなるよう、それぞれに提供するものを変えている。また、利用者同士の関わりが深まるよう、レクリエーションや会話の話題を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夕方にお散歩にお誘いしている。いちご狩り・お花見・万葉の森散策など、外出の機会を設けている。コロナ禍が明け、ご家族様との外出やお墓参り・外食に行かれる方も徐々に増えてきている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたいお気持ちは社会性が保たれているためと理解している。紛失・トラブル等、施設の管理リスクを鑑み、個々に所持することは難しいと考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族が電話をすることを了承されている方には、ご本人から電話をして頂くことがある。ご家族様から季節のはがきやお手紙が届くことはあるが、やり取りはできていない。お年賀状は毎年、ご本人に一筆書き添えて頂き、出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの掲示物は既製品ではなく、ご利用者の作品を掲示している。エアコンの風が直接当たらないよう、風除けの布を掛け温度に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人で黙々と数独や貼り絵に取り組まれる方やソファで一緒にテレビを視られる方、レクリエーションやお話好きな方は同一テーブルにお誘いする等、お一人おひとりの好みにあった時間を過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居前に馴染みに家具搬入頂けるよう説明を行っている。認知症の症状によっては、かえって混乱や興奮を招く場合もあり、観察をしながら居心地よくお過ごし頂ける環境を整えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の表札・お風呂やトイレ表示等を活用し、サポートなしで完結できるよう環境を整えている。		